

令和二年度卒業証書授与式 式辞

理想の彼方をめざし、幸多きこの日を迎えたみなさんに、職員を代表して、心よりの祝福を述べたいと思います。

また、今日まで卒業生を見守り、支えてくださった多くの方々に、卒業生とともに感謝を申し上げます。とりわけ、お子様の成長を心待ちにし、深い愛情で見守ってこられたご家族のみなさまに、心からの御礼を申し上げます。

さて、私はみなさんと同じ三年前にこの加納中学校に赴任し、みなさんの成長を見してきました。この三年間で、みなさんは自治という言葉を深く理解し、仲間といっしょに頑張ることを経験し、一人でも頑張れる自分をつくってきました。

また、男らしさや女らしさ、個性や自分らしさについて議論し、仲間の自分らしさを大切にできる環境をつくること、人のために頑張ることを大切にしてきました。みなさんの三年間は、まさに大人になるための充実した時間であったと思います。

生徒会活動では、後輩たちへの贈り物としてジャージを改定し、いじめ克服の「加納中チューター」を立ち上げ、自分たちでいじめを解決することに挑戦しました。これらは、加納中学校の伝統である自治の精神を大きく発展させる歩みでもありました。

そして、新型コロナウイルスに翻弄されたこの一年、みなさんはこれまで以上に、これまでの中学三年生よりも深く、自分たちはなぜ生きているのか、なぜ学校に来ているのか、なぜ仲間といろいろな活動をするのかを考えました。

それはみなさんが様々な場面で書く内容、話す内容から分かりました。例えば、みなさんで行った面接練習で、中体連大会が中止になったことについて聞くと、こう答えてくれました。「悔しかったけれど、仲間と一生懸命練習したことがよい思い出となっています。」「残念でしたが、後輩に思いを託しました。」

それは、状況をよく理解し、悔しい自分の気持ちに折り合いをつけた言葉でした。悔しい、悔しいと繰り返しても、ものごとが改善するわけではありません。であれば、前向きに考えるべきです。自分の心を整理するといってもよいでしょう。それが分かる言葉でした。

さらに、中止になったことを通して何を学んだかを問うと、ある生徒は「自分の意志をもって行動することの大切さを学びました。」と答えました。その生徒は同じクラブの少ない仲間と毎日地道な練習を続けていました。大会が中止となっても、練習が自分を成長させることを理解したのだと思います。表面的な生き方でなく、自分の人生をより深いところで考え、よりよく生きる意志を感じました。

コロナ禍であることを踏まえ、みなさんに伝えたいこととお話しします。今回のコロナによるパンデミック同様、私たち人類は、過去にも伝染病ペストによるパンデミックを経験しています。そのペストを題材にした二つの小説に書かれている事柄です。

一つは、18世紀の作家ダニエル・デフォーが、ペストが流行したロンドンを書いた「ペストの記憶」です。ここには、何かにすがりたいという気持ち、意図したとおりの結果にならず失望し、自分をだめなものだと考えて、先のことを考えない行動をとる自暴自棄、自分勝手になるモラル崩壊の様子が書かれています。そして、ここから読み取れるのは、答えのない状況でこそ、個人の冷静さや心の強さが試されるということです。まさに、現在の私たちと同じ状況です。

そしてもう一つは、今から約70年前、作家アルベール・カミュが書いた「ペスト」です。これは、ペストが北アフリカの港湾都市オランを襲った出来事が書かれています。ここでカミュは、ペストと戦う唯一の方法は誠実さであると、登場人物に言わせています。そして、誠実さとは、自分の仕事を果たすこと、自分にできることをすること、今の自分をそのまま引き受けること。そしてその中にこそ、人間としての希望があると書いています。どれも当たり前のことのように思えますが、今回のコロナ禍で、それらが簡単でないことを、私たちは知りました。

みなさんはこの一年、どんな状況の中でも、常に前を向いて生活してきました。いくつかの行事が中止になっても投げやりになることなく、変更したかたちで行事が実施されることになれば精一杯取り組み、日常においても地に足をつけて、真面目に生活しました。

困難な状況で、どんな学校生活を送るのか。いい加減に過ごすのか、できることを精一杯やるのか、その選択はみなさん一人一人にありました。そしてみなさんは、立派に生活しました。

これからの人生も、中学校生活三年間のように、季節が巡り、年月が移っていきます。重要なことは、一つ一つのことを自分の手で確実にこなしていくこと。そこにある喜びや失敗から、自分の言葉で表現できる具体的な教訓を学び取っていくこと。そして、時間をかけ、一歩ずつ進んでいって、自分が納得できる場所に少しでも近づくことです。

みなさんが、そんな人生を送ってくれることを祈って、式辞とします。

令和三年三月五日

岐阜市立加納中学校長 七野武稔